



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年11月13日号

編集 / 毎日新聞社カスタマーリレーション本部

静かな闘志

13日(日) = 1、3面



迫る

サッカー・ワールドカップ(W杯)の開幕が20日に迫っています。日本代表を率いるのは、森保一監督(54) = 写真 = です。

1998年フランス大会で初出場を果たした日本にとって、7大会連続7度目のW杯となる今回

は、日本人監督が予選のスタートから本大会までを通して指揮を執る初めての大会になります。最高成績は、過去3度あった16強。森保監督の目標は8強以上です。

これまで選手起用や試合采配などで批判を浴びたこともあり、時には解

任論さえ出たことがあります。しかし、森保監督は声高に反論することではなく、批判などを静かに受け止めてきました。

日本代表監督は、試合だけではなく、プレッシャーとも日々闘っています。W杯開幕前、森保監督の心境に迫ります。

論+ ウクライナ侵攻後の日露関係

17日(木) = オピニオン面

エマニュエル・トッドさんと與那覇潤さん(右) = 東京都千代田区で

ロシアによるウクライナ侵攻は、国際情勢を一変させました。経済制裁で欧米と歩調を合わせる日本は、二国間関係でも見直しを迫られています。北方領土を巡る交渉や周辺の漁業をどうするか。対

露圧力を強める一方、一定のつながりを保ち、国益を守る工夫が求められます。影響を受けている漁業関係者や北方四島の元島民らの思いを聞き、今後の日露関係のあり方を考えました。



千島歯舞諸島居住者連盟の脇紀美夫理事長。海の向こうには生まれ故郷の国後島が見える = 北海道羅臼町で



論点 フランスの歴史人口学者、エマニュエル・トッドさんと、評論家の與那覇潤(よなは・じゅん)さんが対談しました。トッドさんは、旧ソ連崩壊を予測するなど、世界的な出来事の背景を人口や家族形態の分析で読み

文明の岐路

特集 ワイド 大谷翔平 MVP争いの行方

17日(木) = 夕刊特集ワイド

米大リーグ機構は18日、ア・リーグ最優秀選手(MVP)を発表します。投打の「二刀流」で活躍したエンゼルスの大谷翔平選手 = 写真 = が2年連続の快挙となるのでしょうか。今季の大谷選手は初めて、投打同時に規定に到達しました。

MVPは62本塁打を放ったヤンキースのジャッジ選手が本命視されています。しかし、スポーツライターの小川勝さんは、タイトルや数字では表せない規格外の大谷選手の価値をどう見るかがカギだと語ります。



18日(金) = オピニオン面

解いてきた「知の巨人」です。日本史に詳しい與那覇さんと、米国の現状や日本の少子化、中国の今後など、歴史の転換点に立たされている現代文明について、縦横に論じ合いました。

竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞は13日、オンラインイベント「町山智浩さんとアメリカ分断の淵をゆく」を開催します。中間選挙を見ても、米国は混迷が深まっています。映画評論家のえまます。映画評論家の町山智浩さんと、「アメリカ分断の淵をゆく」をめぐらないアメリカ人を出版し、記者の対談を聞き、「アメリカのこれから」を考えてみようと思います。QRからお申し込みできます。



毎日新聞

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年